

第一回「豊堤フォーラム」が、延岡市カルチャプラザのペオカ「ハーモニーホール」で去る二月十八日午後二時からありました。会場は、ほぼ満席。台風や防災に対する意識の高さが伺えました。

主催は五ヶ瀬川の豊堤を守る会、後援 延岡国道工事事務所、延岡市、宮崎県延岡工事事務所、延岡市自主防災組織連協、延岡市区長連絡協議会。精しくは次の通り。

豊堤フォーラム
「万が一が起こった日」
延岡を襲った台風十四号に学ぶもの



特別号

発行 五ヶ瀬川の豊堤を守る会
編集 西本師子
住所 延岡市北町1-14
電話 0982-32-2226
FAX-0982-32-2229

パネルディスカッションの様



第一部
ビデオ放映と基調講演
(延岡工事事務所調査第一課長 鶴崎秀樹さん)
第二部
パネルディスカッション
パネリスト ▲鶴崎秀樹 ▲上杉泰洋 ▲日高隆徳 ▲吉本興市 ▲西本師子会長 ▲コーデネイター 芝弘光
総合司会 上田耕市 (敬称略)

一木一草

日之影町の昌竜寺という寺のご住職、霊本(よしもと)丈法さんの著書「あつと驚く。仏教語」が面白い。日頃から使っていることばが、以外に深い意味をもっていることがわかります。例えば「我慢」がまん。仏教語では、諸悪の根源に充ちているそうです。自己中心が「我慢」だと書いてあります。つまり我(が)はおごりの心。然し、現代人は我慢が足りないといえますから、悪い解釈ばかりではないようです。「ご馳走」ごちそう。という文字をふしぎに思っていました。これも仏教と深い関係がありました。走り回って料理の材料を集め、新鮮なうちに急いで調理して温かいうちに食べてもらう、という意味だそうです。禅寺の台所には草駄天(いだてん)という足の速い料理の材料集めの神様が祀ってあり、調理づくりのご利益があると。他にもいろいろあつて、まさに「あつと驚く」ことばかり。霊本さんの、虎屋ギャラリでの喫茶説法が好評です。

鶴崎課長の

基調講演から(骨子)

大きく変動する日本列島に気象について。世界規模で温暖化が進んでいる結果、南極の氷が溶けて海面が上昇。その結果、海面温度の上昇で大きな台風が発生している。日本でも多発している。日本の気象の予測データで見ると二千年までに猛暑と豪雨を繰り返すなっている。十七年の台風14号について。海水温度の関係で大型を保ったまま、しかも偏西風の関係でスピードがゆつくりとなつて、九州に近づいた。コースが熊本を通過したため湿った空気が県境の九州山脈に吸い寄せられて高千穂、日

の影の山裾に雨を降らせた。今回の雨量を上鹿川溪谷で見ると宮崎県全体の半年間に降る雨に相当する約千二百ミリが二日間で降っている。このような状況が県全域で発生し、大きな被害を出した。激特事業と自主防災について。5年間で集中的に予算をつけて被害の軽減を図る事業。延岡は県、国合わせて二百十二億円の予算がついている。しかし、こうした対策も「自ら」が被害を防ぐ努力を欠かせない。これから大きな災害が起こると考えておかなければならないが、被害を軽減するのは、治水事業と合わせて「自分達の命は自分達で守ること」を手段として考えていただきたい。(概略を編集)

次回予告 五ヶ瀬川の豊堤を守る会では第2回「豊堤フォーラム」と平成18年度総会を6月10日(日)午後1時半からカルチャプラザのべおかで同時開催します。17年に襲来した台風14号の災害を教訓にして「防災とは何か」について真摯に取り組みを展開した「豊堤フォーラム」は、台風シーズンを前に、第一回より更に踏み込んだ企画を計画中です。追って、会員に通知いたしますので宜しくお願いします。

パネルディスカッション

収録

発言集

「台風14号から学ぶもの」

答えはあなたが探してください

登壇者
パネラー

鶴崎秀樹課長(前出)

上杉泰洋推進委員

日高隆則宮崎県日赤ボランティア隊長

西本師子五ヶ瀬川の豊堤を守る会会長

コーデネイター

芝 弘光

芝 弘光

芝 始めに古川公民館長の吉本さんをお願いします。これからお話し頂くことは、お

手元の資料のなかに簡単に箇条書きしたものがありませんのでそれを見ながらお聞きください。台風十四号で吉本さんは古川公民館を区民の避難所として開放され約二週間にわたり水害に関わってこられた実体験者です。その話をディスカッションの柱にし、その後、各分野で活躍されております行政、民間が、今後どうしたらいいかを含めて防災のご意見をいただくことにします。

古川地区を襲った濁流

その時。公民館は！

吉本 台風十四号に対する古川自治区の対応についてお話しします。公民館便りに「台風十四号始末記」の見出しで書きまして区民に配布しています。時系列で紹介いたします。まず、古川町について紹介しますと、ぼかぼか温泉から延陵自動車学校あたりまで東西にわたって約1キロに町が点在しています。所帯数は4四百五十戸、人口約千百人。従

来、水に弱い地域なので区民は災害に関心を持っています。古川自治区の台風に対する対応について話しますと、従来から行政に関係なく、台風が接近すると、そのつど、3役が公民館に集まって規模や進路を分析します。そこで避難所として公民館を開放するかどうかを決めます。十六年には四回、開放しています。十七年の台風十四号についてお話しします。9月5日の正午ころ公民館に避難したいという申し出があり、二役が協議して開放を決めました。ところが申し出た本人は現われない間い合わせると他に避難したからと言う返事でした。7時ころ一、二人集まってきました。8時40分、五ヶ瀬川が増水したので水門を閉じて排水ポンプを稼働するという連絡があり、直ぐに町内の有線放送で知らせ、各戸にも電話しました。この時点で避難者は数名。二役と市の派遣員とで仮眠することにしました。

動きはどうだったか

翌日6日、午前2時半、避難勧告発令。有線放送と電話で周知を図りました。8時半避難指示発令。有線放送と電話連絡をしました。午前9時半、排水ポンプ停止の可能性があると連絡がきたためこれも区民に連絡。9時半にポンプが止まり、区民に知らせました。午前10時ころには避難者が八十四人になっていました。11時、五ヶ瀬川が越水を始めました。11時20分頃、寝たきり老人が救助を待っているという連絡が入り、公民館にいる人にも加わってもらって八人で救助班をつくり、救出に行きました。最初は腰くらいだった水が胸位までになりました。寝たきりの人を運ぶのに苦労しました。昔だったら雨戸に乗せて運んだのですが今はサッシュユ。応接台の足を外して担架代わりにしました。その後も、救助の要請がたくさんきました。道路は溜水してこちらでも動きがとれないありさまでした。要請してくる人のほとんどが二階に取り残された人でした。消防

所をお願いしましたが、被害の大きな細見に行っていて、こちらには手が回らない状態だとのこと。二階で頑張ってくれと頼むしかありませんでした。12時ごろ、これは大変なことになったと、近所の婦人に頼んで炊き出しをしてもらいました。夕食も考えて二百四十人分でした。夕方5時半頃のなると排水ポンプが稼働を始めました。避難者は百十人。床上浸水二百二十軒、自治区内で被害のあつた家千七十七軒。それでも人的被害がなかったことではつとしました。

関心が低い延岡

自主防災の組織化を

芝 上杉さんには自主防災推進員とともに勤務されていた自衛隊一等陸佐という経験が踏まえてお話をねがいます。

上杉 吉本さんにはさつそく自主防災組織を立ち上げてもらいましたよ。宮崎県で防災組織ができているところは県レベルで60%、延岡は現

時点で14%しかありません。関心の低さがわかると思っています。これまでの話しを聞いておけば、すべて事前に準備していただく、勘違いしている方が多いのではないのでしょうか。つまりなぜ自分達がやらなければいけないのか、とか、行政が全てやってくれるはず、という考えがあるようです。しかし延岡市の防災を担当する人は千二百人くらいです。人口十二万人の街に対してですよ。そのことを認識してほしいですね。また、自衛隊も一中隊が2百人。延岡市だけが被害を受けた時はもう少し動いてくれるでしょうが、県全体が大変な時にそれは無理です。実際、助けようと思っても今回の台風十四号では延岡には来られませんでした。自分達でやれることは自分達でやる。三日間くらいは耐えられるような組織づくりが必要です。それに区長さんも高齢化していますから、区長さんはいざという時に自分で動かなくて指令だけでもいい、といった組織網づくりも必要だと思えます。

避難勧告 避難指示

芝 さきほど、吉本さんから話がありました排水ポンプと防災について鶴崎課長さんにお話ししたかったです。

自然災害に備える

根本の見直しを

鶴崎 つまり排水ポンプが付いても万全ではないということ。ただ稼働中のポンプをとめる時、われわれは判断するために様々な検討をいたします。ポンプで内水を放出すること、下流に影響はないか、安全を考えなくてはならないのです。今回の台風はそれだけ危険が大きかったのです。今、一番考えなくてはいけないことは、ポンプが止まった後、どうするかということ。その前に重要なことは、今まで田んぼだったところは、あくまでも田んぼとして利用していただきたい。つまり田のあったところに家が建つと水の逃げ道がなくなり、大きな水災害につながります。先ほど言ったように、農家の人は頑張つて、田んぼは田んぼとして利用していただくよう協力していただきたいので

す。山もそうです。恩恵を受けている下流の皆さんが、山を守るお手伝いをするのも大事です。こういったことも防災ではないか、と考えておられます。

芝 日高さんは日赤ボランティアとして緊急時に活動されているのですが、今回の台風十四号については如何でしたか。日高さんも現場で活動されたそうですが、ご意見をお願いします。

日高 私達のボランティア隊は、人が効果的に働いてもらうためにリーダーとして役割ができる人たちが結成されています。平成十三年に延岡市内を中心に結成し研修を通していざという時に少しでもお役に立ちたいと、やっているわけなのです。

今回の14号で働いたボランティアは千四百人余りでした。ただ、六日から八日にかけて延岡の被害状況がつかめませんでした。延岡がボランティア本部を立ち上げたのが八日でした。その時は日之影、北方の被害が大きいと新聞で報道されている状態なので、

北方へ駆けつけました。宮崎市の場合は、独自のボランティアがあり、七日には本部を立ち上げ活動を開始しています。こちらが遅れた原因は、やはり情報不足でした。収集をどうしていくか、これがボランティアを上手に活用するキーワードかなと思いました。

災害ボランティア

求められる地域ニーズ

芝 色々な経験を通して何か提案はありませんか。

日高 やはりネットワークづくりが大切ですね。宮崎では市町村の枠を越えたMPO法人の十二団体が宮崎災害支援ネットワークを立ち上げた。と聞いています。五ヶ瀬川の豊堤を守る会は、ちょうど良い立場でいらつしやるのですから、こうした災害ネットワークをつくっていただく、我々も協力できるのではないかと期待しております。

先人の智慧を今に

キーワードは豊堤の心

芝 豊堤の話が出たところで、このフォーラムと豊堤について、そして自分達で出来ることは何か、といったことを西本さんをお願いします。

西本 温故知新といいますがこれは古い物を懐かしむだけではなく、古い歴史に新しいものを学ぼうという意味があります。豊堤の仕組みは先程、ビデオでご覧なつた通りですが、豊は身近な生活の中から発想の転換を計つて、自分の身を守るためにうまく利用されています。命を守るためにはどんな物でも使つた昔の人の気持ちこそ大切だと思えます。ところが今はあれがなくちゃ、とか、これがなくては何も出来ないと思つてしまふ頭になつてしまひました。昔の人は、さきほど申した気持ちで物事に向かつていきました。もうひとつ、豊を

豊堤にはめ込むためには決して人ではできません。協働の力、つまり地域の協力があってはじめて真価を発揮します。今、みなさんのそれぞれ立場のお話を聞いていますと、命を守るために自分達は何をすべきかという一貫したものがありません。そこにキーワードがあると思うのです。テーマを豊堤フオーラムとしましたのは、そうした先人の知恵工夫に、今求められていく防災の心があるからです。

芝 上杉さん、今回の14号でいろいろな経験をされたことでしょうか。ご意見をお願いいたします。

上杉 今回は市の対策本部も、消防署も水防本部ができて、どちらも一生懸命だったと思います。しかし、両方に本部があると市民は混乱してしまいがち、どちらに連絡していいのかわからない。市民からの電話がたらいまわしという状態もありました。誰がこの人を助けに行ったのか、さえわからない。市民の電話は一箇所で受け、区長さんとの連携をとることが必要だと思

ました。自衛隊に思考過程という物事をかたづけしていく軍隊制度があります。避難勧告や避難指示が出なかつたという話を区長さんからよく聞きました。たしかに消防自動車は避難情報を流しながら車で走っていたのですが、気がつかなくなつた人が多かつたのです。台風が来ていることがわかつていて、消防車や広報車が何か言えば「何かあるぞ」と、耳を澄ませず、市か消防所に電話して自分から台風の情報の収集をするくらいのことをするべきではないでしょうか。台風は備えて意識改革が必要だという事です。緊張感がないからテレビで時代劇を見ていたら床上まで水がきていた、という事が起こるので。今、世の中は変つています。考えられないような殺人や粉飾決済、建築基準偽造事件などが起きています。世の中のすべての意識改革こそ必要ではないでしょうか。

司会 吉本さんは公民館便りを発行しアンケートを丁寧に取られるなど、ご苦労なさいましたね。区民の反響はい

かがでしたか。

二階避難の教訓 危機意識が大切

吉本 公民館便りの特集を二回出したのですが区民の反響はあまりありませんでした。むしろ被害に遭つた他の地区の人から大変だつたでしょうとか、よくできていますと言葉をいただいています。区の人からは五ヶ瀬川の水位が上がつたことを何故知らせなかつたか、といった苦情がきました。一軒一軒言つて回るわけにはいきません。二階があるからと安心していた人の場合、いざ逃げるとなると道路が冠水してどうにもならなくなつた、という例が多かつたです。避難指示は三時間前に出してはいるのに、緊迫感が全然ないわけです。こんどの台風は相当の薬になつたでしょう。今後は身を入れた会議ができるのではないかと思つています。

芝 災害に対する意識をもっと持つていたら、防げることは多いですね。今回のフオ

トラムのように、こうした被害状況を身近に知り、危機感を共有することが大切ですね。実態の情報を全市民が共有することが大切です。なるだけ多くの人が参加していただきたいですね。ところで西本さんは区長をされているそうですね。如何でしたか。

西本 私は市役所裏の北町というところで区長をしています。60所帯がひとところ、にまとまつた地域の特長もあつて区長から組長への連絡網がしっかり出来ています。一人暮らしやお年寄りのために、前区長さんらが避難のための車を出してくださるよう待機してくださっています。雨風の中は危険ですからね。幸い水は出ませんでしたから、助かりました。今、吉本館長さんの話を聞いて、大きな被害が襲つた時の備えは大丈夫だろうか、と心配になつてきました。豊の話になります。昔は古い文書によりますと、昔は豊をはめ込む施設がなかつたので、人々が豊を体で支えて越水を防いだと書いてあります。防災は、このようにみんなが心一つにして、自分達

でなにかしなくてはいけない、と思うことが大切なのだと感じました。

日高 ボランティアのこと
で、言。今回は高校、中学生が活躍してくれました。商業高校の生徒さんが授業を中断して桜ヶ丘に手伝いにきてくれました。先生の英断があつてこそできた事だと思います。工業高校は松山の養護学校や川水流の保育園へ行ってくれました。十八日には延岡高校のインターナショナルボランティア部が被害者を支援するため救助金のためのバザーを開くなど、みんな頑張ってくれました。これは明るい題材だと思えます。区長さんがたもこうした事を心に留めていてください。若い人の意識が高まっています。皆みなさんを巻き込んだの防災に強い街づくりが出来ればいい、と思っています。

豊堤の補強を

老朽化救おう

西本 今回の台風十四号は先ほど上映したビデオで見ら

れたように、豊堤のすき間から増水した水が街にどんどん流れ出しました。あの時、豊を立っていれば良かったのに、とずいぶん言われました。そこでちよつと言いつつをさせてください。昭和初期に構築されたものですから老朽化してしまいます。豊を入れると、ひとたまりもなく壊れてしまひます。豊は大きさに制限があります。人の問題もあります。今、地域の人に手伝つてくださいと呼びかける事は無理です。鶴崎課長へお願いがありません。老朽化した豊堤の補修や補強を国土省の予算でお願いしたのですが、それも昔のまま形を壊わさない補修の仕方を考えていただきたいのです。会場のみなさま、わたしのこの提案はいかがでしょうか。

(拍手)

芝 そろそろまとめに入りたいと思います。このフォーラムで嬉しく思ってますのは行政の鶴崎課長、上杉防災委

員と民間の吉木さん、日高さん、西本さんが、共に細かなデータを出し合い、説明し話し合うことが出来た事です。このことは非常に重要だと感じました。五ヶ瀬川の豊堤を守る会主催の豊堤フォーラムだからこそ実現できたのではないのでしょうか。ここがいいところですね。さらに拡大して市民の多くが出席したくなるようなフォーラムになればいいと思います。

第一は、映像で情報を共有できたことが地域防災には大切な事だと感じました。吉本館長の生々しい話がありましたね。これで防災の大切さを実感されたのではないのでしょうか。つまり地元から考えようという事です。自分達の命を守るために自分達で出来ることは何かを考えることだと思います。ここにキーワードのカギがあるのでないでしょうか。ご静聴ありがとうございます。

特別号のため、企画記事は割愛いたしました。



挨拶する会長の西本



大勢の参加。意識の高さが伺われた